

【テーマ展示／相互貸借特集展示(小規模展示)】———
2025年4月23日(水)～8月24日(日)
2025年度サテライト展示Ⅰ
「江戸時代の長崎、覗いてみた!—長崎聞見録の世界—」
[場所]南島原市原城図書館(長崎県南島原市)

2025年5月27日(火)～9月28日(日)
2025年度サテライト展示Ⅰ
「西洋の視線—地図にみる世界観と異境認識—」
[場所]國學院大學博物館(東京都渋谷区)

2025年8月25日(月)～12月21日(日)
2025年度サテライト展示Ⅱ
「祈りの世界と食事—食べる聖書物語—」
[場所]南島原市原城図書館(長崎県南島原市)

2025年10月4日(土)～1月25日(日)
2025年度サテライト展示Ⅱ
「祈りの歌の泉をたずねて—グレゴリオ聖歌のあゆみ—」
[場所]國學院大學博物館(東京都渋谷区)

【イベント】———
2025年8月5日(火)・8月6日(水)
せいなんワークショップ
「素焼き調ねんどではにわランタンを作ろう!」
[場所]西南学院大学1号館206教室

2025年8月23日(土)
おでかけワークショップ
「もんきりでうちわを作ろう!」
[場所]南島原市深江公民館(長崎県南島原市)

2025年8月24日(日)
おでかけワークショップ
「素焼き調ねんどではにわランタンを作ろう!」
[場所]南島原市口之津図書館・南島原市原城図書館
(長崎県南島原市)

※西南学院大学博物館は、2025年4月より一時閉館中です。
再開館の時期は未定です。

行事予定は日程、内容等が変更する場合がございます。
各イベントの詳細につきましては博物館ホームページをご確認ください。



〒814-8511 福岡市早良区西新6丁目2-92
(西南コミュニティーセンター内)
TEL 092-823-4785 FAX 092-823-4786(博物館事務室)
ホームページ <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum>



西部地区五大学連携共同開講科目「博多学」の
実地見学を実施しました

日 時：2025年5月31日(土) 14:00～15:30
場 所：西南コミュニティーセンター ホール ほか
参加者：40名

「博多学」は、西部地区五大学(九州大学・西南学院大学・
中村学園大学・福岡大学・福岡歯科大学)で共同開講され
る、博多を「自然」「歴史」「文化」の面から考察する講義です。
2025年5月31日(土)、受講生の皆さんが西南学院大学を訪
問し、博物館スタッフの案内のもと大学構内の歴史や文化に
関わる施設を実地見学しました。

実地見学のイントロダクションとして、まずは西新と西南学
院の歴史について45分程度の講義をおこないました。続いて、
今年度から大学博物館の内部を見学できなくなったため、講
堂を紹介する映像を放映しました。その後は外に出て、大学
博物館(ドージャー記念館)前で古写真を見せながら学院の
歴史を解説しました。1・2号館脇の小道を通りながら聖書植
物園を巡り、元寇防塁(国史跡と復元)を見学、最後にアジ
ア・太平洋戦争中の松脂採取痕が残る松の木を見学しまし
た。実際に植物の匂いを嗅いだり、レンガの色の違いや石畳
の大きさ、松の傷痕を見たりする体験から、西新と西南学院
の様々な歴史を感じていただけたと思います。特に松脂採取
痕の見学では、80年前に付けられた傷痕から未だに松脂が
滲出しているのを、受講生たちが興味深そうに見ていました。
今後も、このような活動を通して地域の歴史・文化の発信に
取り組んでいきたいと思います。

学芸研究員 鬼束 芽依



編 集 後 記

梅雨が明け、夏が来て、博物館のツタも青々としてきました。
ツタは窓枠から博物館の中に侵入し、それを伝って色々な虫た
ちが侵入してくるため、毎年頭を悩ませるものです。古い建物で
のIPM(総合的病害虫管理)活動はいたちごっこで難しい部分
も多いのですが、学生スタッフとともに温湿度の監視やトラップ
調査、殺虫剤・忌避剤の散布などをおこない、虫害防止に努め
ています。今年の夏も、スタッフで力を合わせて乗り切ります。引
き続き博物館活動への応援とご協力をお願いします。

学芸研究員 鬼束 芽依

NEWS

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

Vol.
54
2025.08

所蔵品紹介「イリュストラシオン第817号」

L'ILLUSTRATION JOURNAL UNIVERSEL No. 817
1858年／パリ(フランス)／紙本印刷／縦38.6cm×横27.5cm

本資料は、1858年に刊行された週刊新聞「イリュストラシオン」
第817号の1頁目です。「La grotte miraculeuse de Lourdes」
(ルルドの奇跡の洞窟)という小見出しのもと少女ベルナデットが
体験した奇跡に関する記事が掲載されています。

フランス南西部の村であるルルド(Lourdes)に住んでいた14
歳の少女ベルナデット・スビルー(Bernadette Soubirous)は、
1858年2月、マサビエルの洞窟で白いペールと衣服に青い帯を
締めた女性を目撃します。ベルナデットは女性が命ずるまま洞窟
の岩肌に触れると、彼女の手から聖水が湧き出し、不治の病を
治す奇跡の泉となったとされています。この女性は「ルルドの聖
母」と呼ばれ、その奇跡の体験はたちまちフランス中に広まり、ル
ルドの名を知らしめました。

本資料のベルナデットは、固く結ばれた口、きつとつりあがっ
た眉をしており、あどけない少女というより強い意志を持った女
性のように描かれています。「VUE DE LA GROTTES」(洞窟あた
りの眺め)という題がついた挿絵は、洞窟と周囲の自然を緻密
に描写しています。大きく写実的な風景に比べ、肝心の少女と聖
母は非常に小さく描かれているのは、「奇跡」という超自然的な出来事が、現実
に本当に起きたことなのだというリアリティを持た
せるためでしょうか。また洞窟周辺をリアルに描き出すことで、読者の「ここへ行きたい」という欲望を誘発する狙いも見え、挿絵師
の確かな腕がうかがわれます。

フランスでは、1830年代ごろから商業広告が登場し、新聞の発行部数が飛躍的に増加します。印刷技術の向上や鉄道・情
報網の発達、識字率の向上、経済活動の広がりによって、政治・経済以外のセンセーショナルな出来事、いわゆる「faits
divers」(三面記事的出来事)が大衆によって楽しまれるようになります。司教によってルルドの聖母の真正性が宣言されたのは
1862年のことですが、この第817号が刊行されたのはベルナデットが最初に女性を目撃したのと同じ1858年のため、この奇跡
は即座に報道されたことがわかります。「ルルドの奇跡」の伝播には、瞬間に情報が広がるようになったという時代背景と、真偽
よりも話題性を求めていた民衆の存在が大きく影響していたと考えられます。

学芸調査員 大番 島

＜主要参考文献＞

- ・上智大学新カトリック大辞典編纂委員会編 『新カトリック大辞典』 研究社、2009年
- ・ロミ 『三面記事の歴史』 国書刊行会、2013年
- ・L・シュヴァリエ 『三面記事の栄光と悲惨』 白水社、2005年
- ・V・シュワルツ 「世紀末パリにおける大衆のリアリティ嗜好」『アンチ・スペクタクル』223-257頁、東京大学出版会、2003年



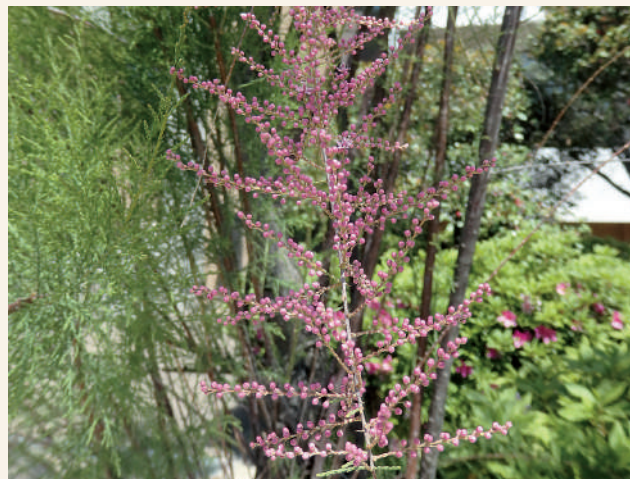
聖書植物だより

聖書植物園で9月頃に見ごろとなる植物をご紹介します

ギョリュウは、創世記21章33－34節でアブラハムが植樹した木として登場します。イスラエル民族の父祖であるアブラハムは、全世界の祝福となるようにと神から召され、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教から「信仰の父」と尊敬されています。聖書では、アブラハムが植樹したという記述はここだけであり、日よけと羊の餌としてギョリュウを植えたのだといわれています。

ギョリュウが桃色の花を咲かせる9月ごろ、オリーブの実も収穫時期を迎えます。紀元前700年ごろから古代ギリシアで栽培され、経済力と繁栄をもたらしたとされています。聖書では創世記8章11節でノアの箱舟から放たれたハトがぐわえてきた葉として登場します。

ギョリュウとオリーブは2号館南側の小道にて育成しております。聖書植物園めぐりの際はぜひご注目ください。



ギョリュウ／ぎょりゅう
花期：5～7月、9～10月 聖書箇所：創世記21：33－34



オリーブ
花期：5～6月 聖書箇所：創世記8：11

大学博物館のお仕事

IX

デジタルアーカイブの整備

近年、博物館法の改正でデジタルアーカイブの作成と公開が博物館の業務として追加されました。資料のデジタルデータをインターネット上にアップロードすることで、資料がもつ情報をより多くの方に共有でき、いつでもどこでも閲覧・利用できるようになります。また、資料の検索や管理も容易になります。さらに、現物に接触する必要回数が減り、資料の劣化や破損などを防ぐことにもつながるため、資料の保存と活用の両立ができるという利点もあります。

整備の手順として、まず、資料の調書をとります。調書には資料名や制作年、制作者、制作地、大きさなどのメタデータのほか、資料の状態や来歴などを細かく記載します。その後、資料の撮影をおこない、Photoshopなどで編集をして、メタデータと資料画像をインターネット上にアップロードします。当館では現在、約1000点の資料のデジタルデータがあります。しかし、これは当館が所有する資料の半分にも及びません。現在少しずつではありますが、皆様に当館の資料をご活用いただけるよう、整備作業をすすめています。是非ご活用ください。 学芸調査員 馬場 紀聡

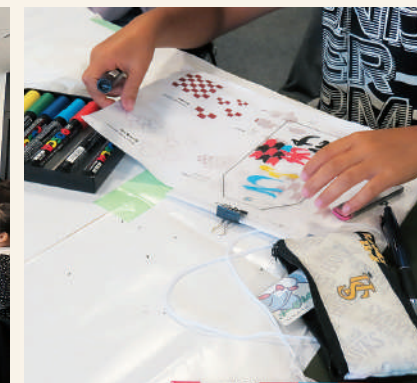


ワークショップだより

2025年5月24日(土)「くずし字でお名前キーホルダーを作ろう!」を開催しました

2025年5月24日(土)に、せいなんワークショップ「くずし字でお名前キーホルダーを作ろう!」を開催しました。当日は、明治時代の教科書を読みながらくずし字について学んだ後、伝統文様を描いたオリジナルのお名前キーホルダーを作成しました。参加者の方々からは、「くずし字の色々な文字を知れてうれしかったです」、「付き添いで参加しましたが、私も作りたくなるくらい楽しい内容＆雰囲気でした」などの感想をいただきました。今回のワークショップは、午前の部と午後の部に分けて行い、どちらも賑やかな雰囲気の中で、キーホルダー作りを楽しんでいただけたのではないかと思います。今後のワークショップ情報については、当館のホームページをご確認下さい。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

学芸調査員 村田 早紀



連携展示紹介

2025年度 西南学院大学博物館サテライト展示Ⅱ

祈りの世界と食事―食べる聖書物語―

会期／2025年8月27日(水)～12月21日(日)

会場／南島原市原城図書館(長崎県南島原市)

今回、南島原市原城図書館で行うサテライト展示のテーマは「祈りの世界と食事―食べる聖書物語―」です。食事は古代より人間にとって大切な営みであり、聖書の世界の中でも、非常に重要な役割を担っています。有名な「最後の晩餐」もまた、そのうちの一つです。本展示では、ユダヤ教やキリスト教における食事の場面が描かれた資料をもとに、信仰に関わりの深い食事や、そこで食べられるものについて紹介いたします。現代の私たちにも通じる「食」から、聖なる祈りの世界を体感していただくと幸いです。

『福音書についての註解と瞑想』より「最後の晩餐」

1595年/アントワープ(ベルギー)/ヘロニム・ナダール/書冊、紙に活版・銅板/西南学院大学博物館蔵

